

令和3年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

音戸中学校区 校番 28 学校名 音戸小学校

a 学校教育目標	〈小中一貫教育目標〉 ふるさとを愛し、自律できる 児童生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 知・徳・体の基礎的な力を身に付け、学校や故郷に誇りと愛情を持ち、感謝・貢献する児童を育む。
	夢をもち 自ら動き たくましく 生活する 児童の育成		〈ビジョン〉(将来の学校像) 挨拶と笑顔があふれ、安全・安心な学校 児童が自信を持ち、目標に向けて挑戦する学校 地域・家庭とつながり、信頼される学校を目指す。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	<p>前年度は感染症予防対策を徹底し、「教える」ことを中心としながら「考えさせる」場を設定する授業改善に取り組んだ。また個別指導の継続で、学力向上に成果があった。地域学習や交流活動は十分ではなかったが、貢献活動は工夫して実施した。今後は「教科の本質に迫る発問」に重点を置き授業改善を一層進め、状況に応じて地域学習を推進する。業務改善についても職員の声を生かし、取捨選択しながら取り組む。</p> <p>今年度の重点 「自ら 気づき 考え 進んで 行動する 音戸の子」</p> <p>① 「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善と個に応じた指導、及びICT教育の推進。 ② 地域素材(人・もの・こと)と関わり、生かした学習活動の充実 ③ 家庭・地域との協働による指導の徹底(挨拶、家庭学習・生活習慣、防災教育)</p>
------------------------------	---

育成すべき資質・能力	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働的に関わる力」「地域の一員として関わる力」
------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・ 2 ・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	10月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力	(知) 「前より賢くなった!友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成	①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを進める	○考える授業づくりの推進 ・考えなくなる課題設定 ・考えを導き広げ深める発問 ・考えを持ち目的を明確にした交流 ・考えの変容を自覚する振り返り ○ICTの効果的な活用	○単元末テスト平均到達値(低80・中75・高70) ○教職員意識調査(授業改善・ICT活用) ○児童意識調査(主体的な学び・ICT活用)	75 80 80	84	112	A	84	112	A
		②個に応じた指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。	○家庭(自主)学習の定着 ○個に応じた課題別学習(ドリルタイム、放課後学習等)	○家庭学習定着率(3年～:自主学習)	90	94	104	A	95	105	A
		③自他のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。	○「親切さんありがとう」運動の取組 ○「あいさつ」の徹底 ○縦割り班活動、異学年交流等の充実	○「親切さんありがとう」を推薦した件数 ○児童・保護者・地域・教職員意識調査(挨拶) ○児童意識調査(自尊感情・自己有用感)	70 80 80	89	127	A	43	61	C
** 豊かな心	(徳) 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成	④地域の人・もの・ことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。	○地域学習や貢献活動を学年3回以上実施	○児童意識調査(ふるさと自慢できる)	80	82	102	A	84	105	A
		⑤基本的な生活習慣の確立を図る。	○「げんきっずカード」による取組(メディア・早寝・早起き・朝ご飯・歯磨き)	○5項目を70%以上達成できた児童の割合	85	89	105	A	86	101	A
* 健やかな心身	(体) 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成	⑥児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。	○走力を重点的に伸ばす取組(3分間走・サーキットトレーニング・くれチャレンジマッチスタジアム等) ○「自分の命は自分で守る」防災授業を年2回以上実施	○50m走の記録が全国平均を上回る児童の割合 ○児童意識調査(防災意識)	70 80	42	60	C	53	76	C
		児童と向き合う時間の確保	○行事の精選と簡略化 ○会議時間の短縮	児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80	70	88	B	92	115	A
業務改善	長時間労働の縮減 環境の整備	○週1回の定時退校の推進	時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合(前年度の割合82.5%を上回る)	82.5	69	84	B	79	96	B	